



Dr's Message

いきいき健康術 第120回

町立病院・診療所の医師や専門職員が
健康情報をお届けします。

京丹波町病院 佐川 友哉 医師

さがわともや

平成29年4月から毎週水曜日に勤務。

京都府立医科大学附属病院リウマチ・膠原病が専門。



必要以上に多くの薬を併用して しまっている状態

外来・病棟で診療を行っている、非常に多くの種類の薬を内服されている方を少なからずおみかけします。通常はさまざまな症状に対して処方された結果なのですが、なかには不要と考えられる薬もあり、そのような状況を“ポリファーマシー”という用語で表現します。

一般に年齢とともに持病の数が増えるため、どうしても薬の種類は増えやすいのですが、残念ながら副作用や薬同士の相互作用で何らかの症状が出ることもあります。また、薬の効果が重複している例もみかけます。そのため、なるべく最低限の薬で治療を行っていくことが理想です。



京丹波町病院 電話 0771-86-0220
町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。
ご理解とご協力をお願いします

『ポリファーマシーをご存知ですか』

ポリファーマシーに至る原因は、「①複数の病院にかかっている」「②薬の管理がうまくできていない」「③薬を中止できていない」などが挙げられます。

主治医は、患者が他の病院でもらっている薬をすべて把握することは難しいので、受診の際は必ず薬手帳を持参しましょう。また、限られた診療時間内に、他の病院でもらっているすべての薬について主治医に相談することは難しいかもしれませんので、かかりつけ薬局を持ち、そこでも相談をしてみてください。薬局でもらう説明書をしっかり読み、『飲んでいる薬がどのようなものを把握する』ことも大切です。また、身体的な問題などで、薬を適切に管理できないこともあるでしょう。実際に「大量の薬が内服されずに自宅に残っていた」、逆に「短期間ですべての薬が無くなってしまった」という方がいらっしゃいます。そのため、家族や施設の職員、ヘルパー、訪問看護師の手助けを得ることも重要です。

長年飲んできた薬を中止することに抵抗を感じる方もあるかもしれませんが、新しい薬に変更したり、重複する薬を中止したりするだけで体調が良くなることもあります。主治医から提案があったときは、前向きに検討してみてください。